



撮影地/酒田市中野目

庄内平野の稲作継続のため、担い手確保とコスト削減を



平田中央・中野目

組 水田面積26haは何人でやっているのですか？

石 今年経営移譲した息子の渡^{わたる}を主に、私と妻はサポート役として家族3人でやっています。孫も農業を勉強中で、来年から農家をやる気になっています。

種まきは約6,700枚を2日間でまきます。ハウス9棟で手灌水での育苗です。直播栽培はし

ていません。水田は家から1km範囲にあり、田植えと稲刈りは同じ地区の生産者と共同作業です。田植えは10条の田植え機械1台で約42haを植え、稲刈りは6条コンバイン1台で同じ面積を刈り取ります。

組 すごい規模ですね。石川さんとは、平成14年の特別栽培米「げんげん米」立ち上げのときからの付き合いですね。

石 当初、東京に何回行ったかわかりません。そのとき、今の販売先（都内量販店・大手給食業者）とめぐり合うことができました。組合長からは、私たちが店頭で新米キャンペーンをしているところに応援に来てもらったこともありました。あれから毎年やっています。

生産者が新米時期に店頭に立ち、お客さんに試食してもらい、交流することで少しでも消費拡大につながればと思います。今年も10月に新米キャンペーンに行きます。

組 「げんげん米」の銘柄は「はえぬき」「ひとめぼれ」ですね。

石 はい。「つや姫」「雪若丸」が出てきましたが、改めて「はえぬき」を食べるとやはり良い米ですね。

組 「はえぬき」の引き合いはとにかく強いです。米卸はじめ、酒造メーカーへも供給していますが「どんな天候の年でも、毎年同じ品質の米が届く」と産地として評価を受けていることを誇りに思います。

石 今年本格デビューする「雪若丸」にも「はえぬき」「つや姫」に続くよう期待しています。ところで、「つや姫」を作りたいけど、要件を満た

さないで作れない人もいます。「つや姫」を栽培できず、また食べたことがない米の生産者はどれほどいるのでしょうか。山形県の販売戦略は悪くないですが、作付戦略はどうかと思うところもあります。

また、将来のことを思うと、専業農家だけではこの田畑が成り立ちません。兼業農家や農業が好きで米づくりを続けている人を今後、どう位置付けしていくかが課題です。

組 管内の水田面積は約12,000haです。その内、約3割は法人などが占めます。今後、面的集積が図られたとしても大規模農家・専業農家だけでこの面積を維持することは現実的ではありません。兼業農家からも稲作は続けてもらいたいです。

石 そのためにどうするのか。経験からですが、田植え機とコンバインは共同所有にすることでコストを削減でき、作業効率を向上できます。一方、トラクターは除雪や畑などで汎用的に使えるので私は個人所有にしています。

組 米卸や量販店、小売店から消費が落ち込まないように配慮しながら、今の価格を維持してもらおう頑張ってもらい、一方で、産地側では生産コストを下げる努力をしなければいけないと思います。

石 他の地区から水田を受託できないかと依頼もありますが、地区内の生産者に頼んだほうが良いと思うので、断っています。

組 農地受委託は最初、地区の中での話し合いが必要です。そうしないとコスト削減につながる面的集約は遠のきます。

また、農地は次第に担い手に集まります。その担い手が効率良く作業できるよう、排水溝を埋めたり、農道と水田の間に傾斜を付けたりして、農業機械が農道で旋回できるように整備しておく必要があると思います。

今後、石川さんは産地として販売先との信頼をどう繋いでいきますか。

石 私たちは求められる品質と数量を毎年確保する必要があります。今後、数量を増やしてほしいなど要望があればJAの力も借りながら、応えていきたいです。

石=石川敏行 会長
組=阿部茂昭 組合長

平田げんげんの会 石川 敏行 会長

昭和28年生まれ。水田面積は25.9ha。はえぬき11.3ha、つや姫2.1ha、ひとめぼれ1.7ha、飼料用米7.5ha、そば0.3haなどを栽培。酒田市中野目で6人暮らし。昨年、息子の渡さんに経営を移譲。平成26年酒田市農業賞受賞。

平田げんげんの会は平成14年設立。栽培面積14.2ha。会員20人。特別栽培米「げんげん米」の「はえぬき」と「ひとめぼれ」を栽培し、JAを介して長年付き合いのある販売先へ供給している。平成29年「東北ブロック未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で東北農政局長賞を受賞。

